

病害虫防除所情報 第4号

令和2年6月1日

山梨県病害虫防除所

【アメリカシロヒトリとマイマイガの発生状況と防除対策について】

1、アメリカシロヒトリ

〔発生状況と今後の見通し〕

アメリカシロヒトリは、幼虫がカキ、ブドウ等の農作物やサクラ、プラタナスと言った緑化樹等多くの植物の葉を食害する。本年、甲斐市に設置したフェロモントラップにおける1回目の成虫の誘殺消長は平年より発生量が多かった(図1、写真1)。昨年8月の第2世代の発生が多かったこと、また、暖冬による暖やかな気候も、今年の発生数増加に影響していると考えられる。

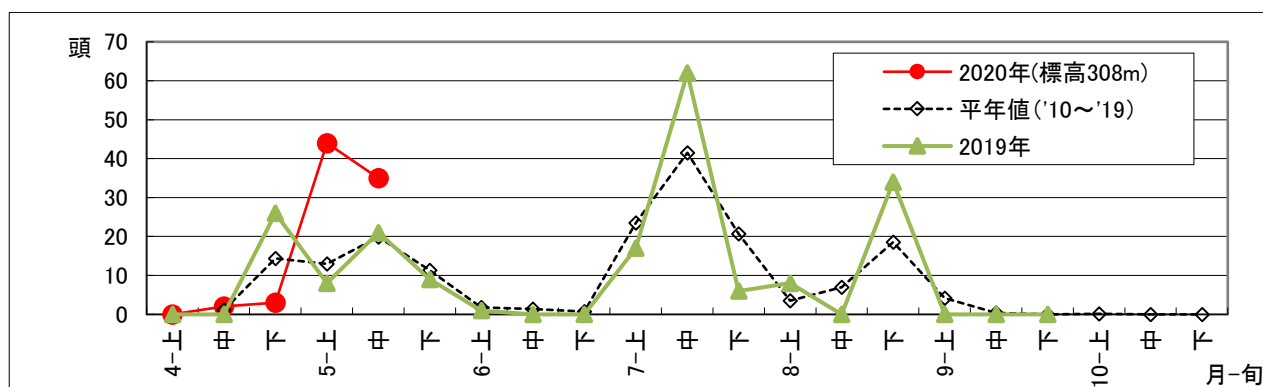


図1 アメリカシロヒトリ成虫のフェロモントラップへの誘殺数の推移
(甲斐市 総合農業技術センター内)

〔生態と被害〕

アメリカシロヒトリは、成虫になると交尾しすぐに産卵する。卵は1週間でふ化し、約1ヶ月間幼虫が葉を加害する。ふ化した幼虫は、はじめは集団で糸を吐いて巣網(写真2)を作り、その中で葉を食害するが、幼虫が大きくなると巣網から出て、分散し葉を加害する。例年、6月上～中旬が幼虫に対する1回目の防除適期となる。

〔防除方法〕

アメリカシロヒトリの防除方法には、薬剤散布と捕殺がある。

- ① 薬剤散布は、幼虫の発生を認めたらすぐに行う。巣網内の幼虫には薬剤が届きにくいいため、丁寧に薬剤を散布する。薬剤を散布する際には飛散防止対策を徹底する。
- ② 捕殺は巣網内に幼虫がいる時期に枝ごと巣網を除去する。除去した巣網はゴミ袋などに入れ日向に数日放置すると死亡するので、自治体の処分方法に従い適正に処分する。



写真1 フェロモントラップに誘引された成虫



写真2 巣網内でサクラを加害する幼虫

2、マイマイガ

〔発生状況と今後の見通し〕

昨年、北杜市、南アルプス市、甲州市、山梨市、甲府市などで多発し、電柱や家屋の壁などに多くの卵塊が見られた（写真3）。

本年は、病害虫防除員から多発生の報告が相次ぎ、街路樹以外の果樹園などでも被害が発生した。今後広範囲に分散し街路樹や庭木などを食害することが予想される。

〔生態と被害〕

森林害虫として知られるマイマイガは、ドクガ科に分類され1齢幼虫は毒針毛を持つ。4月上中旬に羽化し、若齢幼虫は糸を吐いてぶら下がり、風に乗って飛ぶ。通常5回脱皮し、2ヶ月ほどで樹幹や物陰などで蛹となる。6月下旬～8月中旬に成虫となり、7月下旬～8月中旬に産卵する。およそ10年周期で大発生し、様々な草本・木本の植物を食害する広食性のため、時として大きな被害を及ぼすことがある。

〔防除対策〕

- ① ふ化間もない幼虫がまとまっている時期には、ガムテープ等に貼り付けて取り除く。このとき、ふ化幼虫に皮ふが直接ふれないように注意し、ビニール手袋等をして作業する。
- ② 発生が多く、薬剤による防除が必要な場合は、有機リン剤、BT剤、ジアミド系剤などから、作物ごとに本種またはケムシ類に登録がある剤を選んで防除する。
- ③ 防除後も継続して園内に侵入がみられる場合は、その都度捕殺や薬剤による防除で対処する。
- ④ 夏以降、卵塊を見つけた場合は、あまり硬くない平らなものではがし、土中に埋めるが焼却等により処分する。



写真3 産卵直後の成虫と卵塊



写真4 モモの幼果を食害する幼虫